

松本市教育研修センターだより

No.34 令和7年1月31日

新たな年 これまでの学びをこれからの学びへ更新していく

新年を迎え、先生方も子どもたちも新たな気持ちで日々の学びに向き合われていることと思います。2025 年がスタートして一か月。今の私がここに至るまでの経験や日々の実践の中でのあり方をふり返り、これからの自分のあり方を見つめていく大切な時期です。本号では、1月に実施した第2回初任者研修と、年間を通して行われた埼玉大学 岩川直樹 教授・大東文化大学 中村麻由子 准教授による訪問型研修の様子をご紹介します。

教師と子どもの絆を深める授業づくり研修 ～不届 岩川先生・中村先生と見つめる教育の根っこ～

教育の根っこである教師と子どものあたたかな関係性。岩川直樹先生（埼玉大学）・中村麻由子先生（大東文化大学）、そして同僚と共に子ども観を問い直す研修を、梓川小学校・大野川小中学校・奈川小中学校・梓川中学校・清水中学校の5校で実施しました。



本研修は、全校の先生方で授業を参観し、子どもを語る会（授業研究会）は車座やコの字型で語り合いました。どの学校でも一人の子どもについて、担任だけでなく、教科担任や養護教諭、児童会・生徒会の担当者など、様々な面からその子のよさが語られ、皆で傾聴しました。あたたかな雰囲気の中で、教師としての葛藤や悩みも語られ、自己を見つめ直す研修となりました。

【参加者の感想より】

「その子のその瞬間に立ち会えているだろうか」「立ち会えているのに逃してしまっていないだろうか」自身を振り返らざるを得ない時間になった。公開してくださった先生と児童、岩川先生と中村先生、同僚の先生方の素晴らしさを感じ、気持ちが満たされていく、幸せな職場にいるのだと実感し、こんな授業研究会を過ごしたのは初めてであった。

先生方の子どもに向けるまなざしから、もっともっと学ばなければならないとも感じた。教師と子どもの3つの立ち位置。自分はどの立ち位置にすることが多いだろうか。中村先生の「顔が見えるということはその子に伝える自分であるということ」という言葉にはっとさせられた。

もっと早くこの研修会に参加したかったが、当時の自分であれば、今日のような感覚にはなっていないと思う。「あの子」への申し訳なさや後悔と、問い直し続けなければならなかった経験が、今の自分を形成していることは間違いないのだと思った。それは、どの子との出会いでもきっとあるのだと思う。そのようにして、これからの自分自身を自己更新していきたいとも感じた。

岩川先生の「この学校で考えていることが未来の教育である」という言葉がとても印象的であった。「最先端」という自負はまだないが、特別な教育環境としてではなく、自分を磨き続ける場、変容させる場として、この学校で子ども達と学ぶ時間を大切にしていこうと思った。

新たな一步を踏み出す初任者たちへ」 - 第2回初任者研修を終えて -

市内各校で、4月から子どもたちの前に立ち、共に学びを創造してきた初任者の先生方。先輩の先生方の温かいご指導のもと、様々なことにチャレンジし、日々成長を続けてこられたことと思います。

5月以来となる松本市での初任者研修では、大久保センター長による講話、生徒指導に関する研修、そして感情曲線を用いた自身の振り返りを行いました。

大久保センター長は、「どんな先生でありたいですか？」という問いかけから、教師としての在り方について深く考える時間を与えてくださいました。「教師として、常に学び続け、子どもたちの心に寄り添い、そして自分自身を大切にしてください。困難にぶつかった時は、周りの仲間を頼り、共に解決の糸口を見つけましょう。皆さんの熱意と行動力で、松本の子どもたちの未来を明るく照らしてください。」という言葉は、初任者の先生方への熱いエールとして、心に響いたのではないのでしょうか。

生徒指導研修では、子どもたちとの関わりの中で起こりうる場面を想定し、教師役・子ども役・観察者に分かれてロールプレイを行いました。先生方は、普段何気なくかけている言葉の中にも、自身の経験に基づくバイアスが含まれている可能性があること、そして真に子どもに寄り添うとはどういうことなのかを、改めて考える機会となりました。

日々の業務に追われる中で、じっくりと自己を振り返る時間はなかなか取れないものです。そこで、90分のワークショップを設け、4月から12月までの自身のモチベーションの変化をグラフ化し、その変化について語り合いました。ホワイトボードを囲みながら熱心に意見交換をする先生方の姿が印象的でした。オープンクエスションによる相互理解を通して、それぞれの先生方の強みを見つけ合い、今後の教育活動に活かしていくための貴重な機会となりました。



1年間、子どもたちのために、そして学校のために、懸命に走り続けてきた初任者の先生方。今回の研修で得た学びや仲間との繋がりを大切に、次年度に向けて新たな決意を胸に、さらなる飛躍を遂げられることを期待しています。

研修で出会った仲間、そして各校の先生方と共に、「子どもが主人公」の松本教育を創造していきましょう。

【参加者の感想から】

- ・教員は自分自身が学び続ける存在であることが大切だと改めて感じた。「少しずつできることを重ねていく」という言葉がすごく印象に残っていて、小さな積み重ねが大切なんだなと思った。今後も研修には積極的に参加しようと思いました。
- ・教師に余裕がないときほど、つい子どもに対して、支配するような言葉を使ってしまうと思います。常に心や体に余裕をもって子どもたちとかかわっていきたいと思うと同時に、子どもの思いや立場に常に寄り添う姿勢を大切にしたいと思いました。
- ・モチベーション曲線を書くことで、この1年間の自分を振り返る機会になりました。同じグループの先生方と対話しながら見ることで、自分では気づいていなかった“良さ”を知ることができ、少し恥ずかしさもありつつ、褒められて嬉しくなりました。ストレスとポジティブに向き合いながら楽しんで仕事を続けていきたいです。